

第 2 回川崎臨海部活性化推進協議会

■日時：令和 4 年 3 月 25 日(金)14 時 30 分～16 時 40 分

■場所：川崎生命科学・環境研究センター（L i S E）1 階大会議室（オンライン併用）

1 開会

○福田市長

年度末の大変お忙しい中、当協議会の大西会長はじめ多くの皆様にお集まりいただき誠にありがとうございます。先々週になりますが、3 月 12 日に待望の多摩川スカイブリッジが開通をし、大きなニュースにもなり、以来、非常に人も多いということで、期待値が高かったものがようやく動き出し、大変嬉しく思っております。これまでの皆様のご理解とご協力で深く感謝申し上げたいと思います。今日はさっそく橋で繋がった大田区の方にも参加をいただいております。3 月 12 日に大田区側で開通式の後にシンポジウムが行われました。羽田イノベーション・シテイというところで行ったのですが、そこから見ますと、対岸のこちら側の街が本当に橋で全部一体となっていることを改めて感じました。多摩川でどっちだこっちだという話ではなくて、まさに一体のまちづくりが進むものと体感しておりますし、さらにこの輪が広がっていくことを期待しています。

臨海部ビジョンをつくってから 4 年が経ちました。脱炭素に向けての世界的な潮流や、扇島の大規模土地利用転換といった、この 4 年間の中で今までには考えられないような事態となっておりますので、この取組の成果をしっかりと踏まえて、これからどうしていくかということをお客様と一緒に共有させていただきたいと思っております。

ENEOS 様、ペプチドリーム様には、時宜にかなったお話をいただくということでありがとうございます。このエリアは様々な状況変化がありますが、今日集まっている方々、臨海部の方々が知恵を出し合って、顔の見える関係をつくってエリア価値をしっかりと高め合っていくということで、産学官が連携していく取組であると理解しておりますので、ぜひ今日も有意義な会にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○川崎市臨海部国際戦略本部 山本担当課長

・資料確認

2 議題

(1)臨海部ビジョンの進捗状況

リーディングプロジェクトの中間評価に向けた取組状況について

○大西会長

これからコロナ禍も落ち着いてくるのではないかと思います。しかし昨日も東京で 8000 人を超えているということなので、なかなか本格的に減少していないところが気になるところですが、注意しながら会議を進めてまいりたいと思っております。福田市長からもお話がありましたように、橋がかかっているよこのキングスカイフロントのフロントと

いう意味がはっきりと浮かび上がってきたように思います。一方でこの開発はもうかなり進んでいて、これで人気が出て立地したいと思っても、用地があるのかということなので、川崎全体でさらに連携していくようなことを考えていく必要があるのではないかと思います。今後キングスカイフロントの成果が次々と世に出て、非常に役に立っているということになっていくことを大いに期待したいと思います。

それでは議事次第に沿って議事を進めてまいります。議題1 臨海部ビジョンの進捗状況について、川崎市から説明をお願いします。

○川崎市臨海部国際戦略本部 東部長

皆様には日頃から臨海部ビジョンをはじめ臨海部のさまざまな取組についてご協力いただきましてありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。私の方から臨海部ビジョンの取組と今後の方向性について説明をさせていただきます。

2018年3月に臨海部ビジョンを策定し、4年が経過しております。策定前は立地企業の皆様、エリア全体が抱えている課題、例えば設備更新をしたくても、敷地が高度に利用されていて拡張できない、設備が老朽化していて更新するのが大変だ、近くの公園にごみが捨てられていて汚い、怖いので何とかしてほしい、通勤環境、交通ネットワークをもっと強化してほしいというような声がありました。こうしたニーズ、課題に応えるために、企業の皆様にご協力をいただきながら、知恵を出し合って13のリーディングプロジェクトと43のアクションプログラムを立ち上げて、この4年間、さまざまな取組を進めてまいりました。その結果、資料の表のとおり取組を進めることができました。改めて皆様に御礼申し上げます。

資産活用・投資促進プロジェクトでは、投資促進に関する新たな支援制度を構築して、令和3年4月から運用を開始しております。その第1号として日本冶金工業様に交付を決定しております。水素エネルギー利用推進プロジェクトでは、千代田化工建設様をはじめとするAHEADが世界初の国際間水素サプライチェーン構築の実証実験を行いました。海外から水素をMCHという液体に変換して、それを船で輸入し、川崎臨海部の製油所で発電利用を行いました。また、JR東日本様がFCトレインを走らせて、かなり注目を集めています。

こうした多様な主体と連携したモデル事業を実施してまいりました。緑地創出プロジェクトでは、「臨海部における共通緑地ガイドライン」を策定し、新たな制度を構築しました。

ここからは少し詳しく説明させていただきます。新産業拠点形成プロジェクトにおける南渡田地区拠点整備について、拠点整備基本計画の策定を進めており、来年度早々に計画を策定する予定となっております。南渡田地区の目指す方向性として、革新的なマテリアルを生み出す研究開発機能の集積による拠点形成を目指し、土地利用を進めるとともに、基盤整備、交通拠点を整備することとしております。今後、新産業の拠点形成を含め、南渡田地区を核として周辺との相乗効果を生みながら将来に向けて川崎臨海部を発展させていきたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

次に、キングスカイフロントにおける取組についてですが、当地区においてはすべての区

画の所有者が決定しており、今後はクラスター化を加速するため、インキュベーション機能の強化を進めていく予定です。図にあるように JSR 様、国衛研様、サイバーダイン様、島津製作所様など、立地企業等が主体的に共同研究ラボを設置するなど、インキュベーションの取組が進められていますので、川崎市としてもこうした取組を後押しする体制を強化し、エコシステムの形成を目指してまいります。3月12日には、先ほど市長から話がありましたように、多摩川スカイブリッジが開通し、世界とより近くなります。このエリアのポテンシャルや、対岸の大田区との関係性も高まりますので、後ほど大田区の方からもお話をいただきますが、エリアが一体的に発展できるように取組を進めてまいります。

低炭素インダストリー構築プロジェクトについてですが、石油化学コンビナートを中心とした川崎臨海部がカーボンニュートラル化に対応できなければ、今後、産業競争力を失っていくという危機感から、この構想の策定を進めてきたところですが、策定にあたっては、企業の皆様にアンケート調査、ヒアリングにお答えいただくなど、ご協力いただきましてありがとうございました。この3月でこの構想を策定する運びとなります。カーボンニュートラルなコンビナートにしていくということで、水素を軸としたカーボンニュートラルなエネルギーの供給拠点、域内外の炭素を資源化する炭素循環型コンビナート、エネルギーが地域最適化され立地競争力のある産業地域の3つの実現が重要であることから、この構想に基づき、来年度早々には産官学による推進体制を整備し、そこからさまざまなプロジェクトを創出していきたくと考えておりますので、こちらへの参画もお願いいたします。

働きたい環境づくりプロジェクトですが、塩浜3丁目地区において、Park-PFI制度を活用した緑道の環境整備と交通レスト機能の整備を進めております。現状は公園の老朽化、ごみのポイ捨て、荷待ち大型車の路上駐車などの課題がございます。これらを改善するため、梶橋水江町線沿道と池上新町南緑道の一体利用を図り、事業者による公園の再整備や維持管理、交通レスト機能の整備などを行うものでございます。先日、事業者が決定したところとございまして、来年度から整備等に着手し、令和5年4月頃の開始を予定しております。これにつきましては、市からも積極的にPRをしますが、立地企業の皆様からも関連の物流企業等にお知らせいただくと幸甚です。

交通機能強化プロジェクトですが、「臨海部の交通機能強化に向けた実施方針」に基づき4つの地点を交通拠点と位置づけ、基幹的交通軸における効率的な移動を可能とする新たな交通ネットワークの形成を目指し、土地利用転換も視野に入れて臨海部の交通機能強化に向けた取組を進めてまいります。なお、4月には大師橋駅、浮島を起点にしてスカイブリッジを渡って天空橋と結ぶ新たなバス路線が開通いたします。また、来年度には川崎駅と水江町を結ぶ路線でBRTを運行する予定となっております。交通機能につきましては、まだまだ課題がございますが、着実に強化を図ってまいりたいと考えておりますので、これからもご協力をお願いいたします。

次に臨海部ビジョンについてのこれからの方向性についてですが、ビジョンの策定から4年が経過する中で、臨海部では大きな環境変化が生じるとともに、リーディングプロジェクト

トを進める中でさまざまな課題が顕在化しつつあります。PDCA を回して、社会情勢の変化をしっかりと捉え、リーディングプロジェクトを効果的に進めていけるようにしていきたいと考えています。来年度からリーディングプロジェクトの一部見直しも視野に入れて将来像の実現に向けた最適な取組について、企業の皆様のニーズや課題を丁寧に確認させていただきながら改めて検討を進めていきたいと考えております。企業の皆様には引き続きご協力をお願いいたします。

○NPO 法人産業・環境創造リエゾンセンター 小泉様

私どものNPO法人は、臨海部に立地する企業19社で構成されています。2004年の設立以来、連携した活動を通じてこの地域の経済、環境の好循環の為の活動に取り組んでいます。今日は2つほど報告とお願いということで発言させていただきます。まず、リーディングプロジェクトの7、世界に誇れる人材育成プロジェクトについて、これから私どもはNPOとして関わらせていただきたいということで発言させていただきます。この事業につきましては、企業の枠を超えた人材育成ということで、2020年度、2021年度と製造現場の安全管理講座として川崎市が主催し、この資料によりますと、2021年には18社158名が参加して、参加者からは大変高い評価をいただいているということです。実は私自身もオブザーバーでこの講座を受講させていただきました。コンビナートの安全に関する実践的な取組と、実際に参加している企業間でいろいろな他の会社の安全に対する取組も知ることによって、非常に貴重な機会だと実感しました。現在、この事業については実証事業ということで、川崎市が共通講座の運営をしていますが、今後は別の組織への移行も検討しているとのことでございます。私どももNPOとして、この臨海部地域の安全に繋がる共通の人材育成の運営につきまして、川崎市のご指導とご協力をいただきながら、2年後を目途にこの講座の運営に関わっていききたいと考えています。本日ご出席の企業の皆様も関心を持っていただいて、講座への受講について引き続きのご協力をいただきたいと思います。

もう1点、リーディングプロジェクトと直接は結びつかないかもしれませんが、私どもNPOでは、今まで12回にわたって、毎年、コンビナートシンポジウムを開催してきました。このイベントは全国各地のコンビナート地区とも連携をして、企業間連携等を通じ、IoT活用、安全など、好事例の情報共有を行ってきたものです。昨年10月にはコロナ禍ということもあり、オンラインでこのシンポジウムを開催しました。川崎のENEOS様のカーボンニュートラルの取組、鹿島コンビナート、四日市コンビナートからも事例発表をいただき、全国の企業関係者や自治体関係者約300名以上の方から受講いただきました。私どもNPOでは、こうした取組を通じて各地のコンビナート関係者と一定の繋がりができつつあると認識しております。これからコンビナート間の地域間の協働という側面もございましたが、各コンビナートと連携した取組で環境をよくするというところもあるかと思っております。今後とも川崎市の指導もいただきながら先進的な取組をしている地域との連携を進めていきたいと考えていますので、よろしくをお願いいたします。

○大西会長

小泉様からお話しいただいた講座というのは、開設時期が決まっているのでしょうか。

○NPO 法人産業・環境創造リエゾンセンター 小泉様

既に川崎市主導で行っている事業で、2021年度は10月と2月の2回、3日間のコースで実施をしています。

○味の素 加藤様

先日、福田市長から川崎市の総合計画についてお話を伺える機会がございました。その中で、基本認識ということなので川崎市全体だと思いましたが、活用すべきポテンシャルということで、1つには今日もお話がありました、交通ネットワーク、非常に優れた交通ネットワークを臨海部でもということでお話がありました。もう1つが、若者文化の発信とスポーツということが川崎として非常に優れたポテンシャルだということだったと思います。

特に若者文化について、福田市長のお話を伺っていて、パリ五輪の有望なブレイクダンスの選手になるような方も川崎市には多いというお話を伺って、非常に驚きました。実は私も味の素も、Z世代にフィットするような事業、製品が、企業として持続的に発展していくためには必要だろうと、非常に着目して、研究をしています。特に親和性の高い若者文化、アーバンスポーツのような接点について、今、研究をさせていただいています。川崎市全体としてポテンシャルが非常に優れている、そういった側面と臨海部発展といったこととの関連性について、本日はお話がなかったと思いますが、千鳥公園で、例えばダンスやスケボー、BMXといった施設等の活性化も計画されて実行されているということも耳にしておりますので、そういった観点からも何かこういったプロジェクトに活かすべきこともあるのか、その辺についてお聞きしたいと思います。

○福田市長

総合計画の時にお話させていただきましたが、ここでお聞きになっていない方もいらっしゃるので改めて繰り返させていただきたいと思います。川崎市は大都市の中で最も平均年齢が若い。そして、川崎市に転入して来られる方の75%は10代から30代以下という形で非常に若い世代が揃っている。元々のポテンシャルとして、ブレイクダンス、BMX、スケボーといった若者文化が川崎に根付いていて、レジェンドと言われる人達がたくさんいる。そういうことを活用し、若者文化をもっと発展させようということを取り上げています。

千鳥町の話もありましたが、今、千鳥公園よりも前に京急川崎駅前で、再開発に向けての取組が行われております。結構大きな箱がありますので、そこを京急さんからお借りするような形で、若者文化を醸成していこうと思っています。健康やスポーツというところと非常に親和性の高いところですので、例えば、この殿町でいきますと、慶應殿町タウンキャンパ

スが 110 プロジェクトという超高齢者に向けての取組、どうやって長寿になっていくのかという研究を病院やいろいろなステークホルダーの皆さんと一緒にプロジェクトを組んでいます。こういう若者というところはおそらく非常に関心の高いところで、一部既に味の素様に既に関わっていただいているプロジェクトがありますけれども、スポーツに必要な栄養素は何かというものをもっと発信して取り組むような事業も市内で始まっています。こういうようなことがもう少し、産学連携のように、他所を巻き込むような形で、殿町、あるいは臨海部に限りませんが、市内全域で取組ができればと思っていますので、様々な連携するステークホルダーの皆様とそういったことができれば非常に面白いなと思っています。

○川崎市臨海部国際戦略本部事業推進部 東部長

先ほどリエゾンセンター様からお話をいただきました 2 点目のところで、コンビナート間の連携の話がございました。先日、私が伺った話ですが、工場の定期修繕の関係で暑い夏、寒い冬を避けて春秋に集中的にやっていることが多いとのこと。集中的に作業することとは、人工（にんく）を確保して長時間働いてもらうということで対応してきたということですが、昨今の働き方改革の関係で長時間労働がなかなか難しくなってきたということで、作業員の方をコンビナート間で取り合いになる可能性があるとのこと、行政がある程度関与して、例えば、川崎でいうと千葉、鹿島といったところと調整をする必要が出てくるという話があり、今後カーボンニュートラル化の取組も進んでくると、コンビナート連携がこれからますます大切になると考えております。これについては、平野先生からも毎回ご意見をいただいているところでございます。

○成城大学 平野教授

毎年思っていますが、いつも計画を立てっぱなしではなく、きちんと進行状況をチェックされる会合を持たれているので、各地域でも非常に珍しいです。その点でもこの会は意味があり、形だけでない会合になっている点、行政の方と企業の方がそれぞれ協力し合っこのような形を形づくられているので、いつも素晴らしいことと思っています。

その上で、3点ほどコメントさせていただくと、1点目は今回リーディングプロジェクトにカーボンニュートラルコンビナートが入っているのは良かったと思います。国に先駆けて川崎市がこれを立案したというのは非常にインパクトがあって、川崎市の見方をみてそれぞれ次の国の検討に入り、各地域の検討に入っていったという点で、まさに日本の先駆けになっているのがこの川崎だということがはっきりとしていると私は思っています。その中で、立地企業が先進的な取組をする時に川崎を選んでくれているということも非常に大きいと思っています。是非、選ばれ続ける川崎であるために、次に国の支援が進んでくると良いのではと思っています。日本のコンビナートの将来の姿は川崎から見えてくると思っています。

2点目は、企業、行政、市民が一体となっている会合は、とても意味があると思っています

す。他の地域も回っていますが、今日は島田副会長も参加していらっしゃいますけれども、地元の方、企業だけでなく市民の方も一緒に考えて支えてくれている形になっているコンビナート地域だと思います。かつて4大公害病に苦しんだにも関わらず、そのような支援が得られているというのも川崎の一つの強みではないかと思っています。その点でもこの取組がさらに進んでいく事を願っています。

3点目は南渡田についてで、そろそろネーミングをしっかりと考えた方が良いのではないかと思います。南渡田地区という名前を外して考えた方がよいと思います。その時にキングスカイフロントとの関連性がある名称を考えた方がよいのではと思います。キングスカイフロント自体は十分に成功して、大西会長が最初におっしゃったように用地も少なくなっています。川崎市に相談してもだんだん用地が少なくなっている中で、ブランド力が非常にあるこの地域が成功したので、このブランド力を活用して、南渡田はこのキングスカイフロントに関係、関連しているということがわかりつつ、しかしながら棲み分けが図られているという形でネーミングをきちんと決めて、キングスカイフロントのブランドを活かして、次のピックアップ拠点を展開させていくという取組をした方がよいのではと思いました。

(2) リーディングプロジェクトに関する取組

ENEOS カワサキラボのご紹介

○ENEOS ホールディングス 徳富様

弊社は、普段は川崎製油所から本協議会に参加させていただいておりまして、日頃から皆様に大変お世話になっており、ありがとうございます。私自身はENEOSの中でも未来事業推進部という新規事業開発を担う部門に所属しており、今回、その取組の一貫でENEOSカワサキラボという川崎の扇町にドローンの実証ビルドを構築したプロジェクトを行いましたので、紹介させていただきます。

こちらをご紹介する前に、我々の部門のドローンに関する取組を簡単に説明させていただきます。その後、ENEOSカワサキラボの開設背景と内容についてご紹介させていただきます。

我々のドローンに関する取組です。我々、未来事業推進部はまさに部署の名前のとおり、会社の未来の事業を創っていくというところを使命として2019年に発足しました。特徴としてはベンチャー企業に対する投資を中心に活動を行っておりまして、またイノベーションを起こしやすいようにということで、本社から少し離れた大手町のシェアオフィスに構えています。現在総勢28名程度となっております。右下のところにENEOS未来ハブという形でホームページ運営も行なっておりますので、興味のある方はご確認いただければと思います。新規事業を開発する上で一定のテーマを定めておりまして、こちらに書いてある5つのテーマがあります。特にまちづくりの意義という観点においては今回ご紹介するドローン、空飛ぶ車は非常に注目すべき、価値が大きい分野だと捉えて活動を開始しています。ENEOSとドローンがどういう関わり方なのかということに関しては、1つめは既

存の事業にとらわれない全く新しい新規事業を創出していくという観点です。もう1つは、当然 ENEOS は各地域に製油所を持っておりますので、こちらの点検をドローンで高度化していくという2点があります。当然この両方を並行して進めています。本日は私の所属する部門を中心にご説明させていただきます。ドローンを使った全く新しい取組というのは何かというと、今後ドローンに関する法規制が緩和されていき、仮に街中をドローンが飛び交って活躍していくという世界は遠くないと思っております、こうした世界が実現するためには、ドローンなので離発着する場所が必要ですし、エネルギーを供給する場所が必要だということで、ENEOS がまさにガソリンスタンドのドローン版というか、ドローンのためのインフラを整えていく部分ができないかということで、取組を開始させていただいています。この拠点を中心に様々なドローン点検整備サービスや、ドローン配送サービス、警備サービス、こういったものが展開されていくような世界になると、人手不足などの社会課題の解決に繋がるのではないかと考えて活動しています。少し未来の話ではありますがけれども、注目してこれを目指して活動しています。これを実現するために SENSYN ROBOTICS(センシンロボティクス)さん、SKYDRIVE (スカイドライブ) さん、というベンチャー企業に対して投資を行って、資本提携を結んだ上で事業を促進している状況です。特に SENSYN ROBOTICS とはドローンに関する取組を注力して実施しています。ドローンのステーションを作り出してそこを拠点に点検、警備、災害対応サービスを行っていく、将来的には街中にこのステーションを展開していくという構想を目標に取組をさせていただいています。彼らとは未来事業推進部が目指す世界に向けた取組と、製油所のドローン点検を高度化していくという2つを行わせていただいております、今回、川崎にラボを作らせていただいたのはこの2つを同時に加速していくためと考えています。

ここから ENEOS カワサキラボの紹介になります。今回ドローンを自由に飛ばせるドローンショーケース兼実証フィールドというものを ENEOS 川崎事業所に設置させていただきました。川崎事業所は川崎市の扇町にあります。非常に歴史が古く、1931年に操業を開始したものの、石油精製に関しては2000年に停止しております、現在敷地内のほとんどの設備が稼働していないような状況です。とはいえ敷地面積としては29万㎡あります。そのうち、ドローン実証フィールドとして使える場所が4万㎡と非常に広い敷地が残っております。ここに2つの機能を持たせており、1つめがドローンショーケースということで、ドローンの展示をはじめ、ドローンに関わるソフトウェアをご覧いただけるような場所を準備しています。ここで、お越しいただいた方と様々なディスカッションができればと思っております。ドローン実証フィールドは、まさに使用停止した設備がそのまま残っているわけでドローンの実験を行うには非常に適した場所ということになります。施設としての魅力は、こういった使った装置がそのまま残っているというのは日本でも非常に稀だと認識しており、それがさらに関東近郊にあるということは非常に価値あることだと思っております。また、言うならば、経営者としては、使用していなかった土地をこうした新しい取組に活用しているという点でも良い取組ができていると思っております。

こちらを開設した理由について言及させていただきましたが、改めて、ここに記載しています。オープンイノベーションということで、様々な方に来ていただいて産業を盛り上げていきたいという思いで作らせていただいています。資料に記載している様々な関係者の方々とこちらでディスカッションすることによって、ドローンの社会醸成や認知度を向上させていきたいと思っていますし、当然私有地なので自由度が高くドローンを飛ばせる、ドローンのソリューションを改善していき、将来的には公共地でサービス展開することに向けた準備をここで行っていきたいと思っています。

川崎製油所は浮島にあります。今回設置したのはそこではなく、川崎事業所という、扇町にある場所になります。川崎駅からバスで約25分にある場所です。こちらは川崎事業所マップになります。少しいびつな形をしていますが、赤色で塗った部分がENEOS川崎事業所の敷地になります。右側の公道に面した入口から入ったところに本館があり、隣に倉庫があり、ここも当然使っておりません。さらに左の方に行くとプラント設備の残りがあり、ここも概ね使っていないような状況です。右の方に行くとタンクエリアがあり、ここも使用していないような状況です。この中にガスコンプレッサーとオイルセパレータが稼働している箇所がありまして、こちらに関しては危険物一般取扱所としての扱いが残っておりますけれども、それ以外の部分はプラントとしては稼働しておらず、油も抜いておりますので、通常であれば防爆等を考慮する必要があるドローン飛行というものを、自由度高くできるというような状況です。写真で少し紹介していきますと、まず入口を入ってすぐのところ、本館の会議室の一室を少し改装して、こういったドローンの展示場にしています。少し左に進んだ空き地にはパートナーであるSENSYN ROBOTICSさんのドローンポートを設置しておりまして、ここを起点にドローンを飛ばして周辺にあるこうした配管ラック等の点検等の実験を行ったりしています。プラント設備の中に入っていくと写真のとおり、一定の高さのドラムであったり配管であったりが設置されており、当然ドローンの点検が可能になっています。ドラムだけではなく通常よく工場にあるポンプ設備等もありますのでUGV (Unbound Ground Vehicle)、陸上のロボット等の点検も実施可能だと思っています。タンクエリアでは元々高さ20m程度のタンクが5基残っておりまして、油を抜いている状態ですので、こちらでもドローンによる点検が可能となっています。施設の紹介は以上です。是非様々な方々に気軽にこちらに来ていただいて、この臨海部を盛り上げていく、新しい産業を作り上げていくという部分でディスカッションができればと思っています。

ペプチドリームのご紹介

○ペプチドリーム 沖本様

弊社は2006年に設立されまして、2013年にマザーズ、2015年に東証1部に移動しまして2022年からプライム市場ということになっています。従業員数は約170名で、そのうち約9割が研究者です。当社が2017年からこちら殿町のキングスカイフロントに移ってまいりまして、現在こちらの一か所で本社機能と研究所機能を兼ね備えたところで稼働してい

ます。

事業内容については、当社独自の PDPS という仕組みを使い、ペプチド創薬というものを行っています。これについては後ほどご説明させていただきます。売上高については約 93 億円で営業利益が約 44 億円でございます。こちらが本社のご紹介でして、(資料) 左上がオフィスで右上が夜をイメージした会社の外観、左下が 1 階の会議室ゾーン、右下がホール、個々で研究者が研究発表をしたりするスペースになっています。

ペプチド創薬ということで、ペプチドとは何かということをお説明させていただきます。資料右上の数珠のようにになっている、これがペプチドで、アミノ酸がいくつか連なったものをペプチドと言っております。ヒトの身体の中にもあり、通常の生体構成成分としていろいろな機能を果たしていますが、弊社で行っているのが環状ペプチドといって特殊なものになっています。1つがこのように環状になっている、通常は鎖状になっているものというのと、丸ではなく一部四角を書かせていただいています、いわゆる天然のアミノ酸だけではなく、弊社で独自に作ったアミノ酸もここに入れているということで、特殊なものを使って創薬を行っています。これを従来のものと比較させていただきましたが、いわゆる従来の医薬品というのは、この低分子薬品というものでして、一方、2000 年頃から創薬のところで非常に大きく成長してきたのが、抗体分子と呼ばれている高分子の医薬品です。弊社が行っているこの特殊環状ペプチドというのは、両者の良いところを併せ持っているという特徴があります。具体的には高分子のような非常に高い選択性、薬剤のターゲットに対して高い選択性がある一方で、低分子のように非常に安いコストで作れるというような両者のメリットを併せたような特徴があります。

そういうこともあり、ペプチドという領域は国内外の製薬企業様からも非常に高く注目していただいております、こちらが創業以降、様々な製薬企業様と共同研究をさせていただいた図です。昨年、一昨年などは武田薬品様との提携をさせていただいたということです。こちらが創薬の流れを説明した図です。弊社が行っている創薬は薬のターゲットになるものからそれに結合するヒット化合物をとってくるところから、いわゆるヒトでの臨床試験に入る手前ぐらいまでのところを行っています。ヒット化合物を先ほどの PDPS を用いまして、そのターゲットにくっついてくるものを探してきて、そこから最適化を行います。最適化というのは細胞や動物モデルを用いて様々なパラメータを基に、薬として最適な化合物に仕上げていくというプロセスです。具体的には生体内の安定性や溶解度、細胞の透過性といった、様々なパラメータを最適化していくプロセスになります。できてきた医薬品化合物を基にヒトでの治験を行っていく流れになります。

弊社は、最初のヒット化合物のところから始めまして、徐々にこういった最適化のところの機能を強化しております、社内のグループを増やしていく中で、ちょうどキングスカイフロントに移った時には 80 名ぐらいだったのが、今では 170 名まで増えてきたということで、順調に研究者を増やしているという状況です。

今、1 つの具体的な例としてコロナウイルス治療薬について説明をさせていただきます。

これも PDPS という技術を基に作った薬でして、こちらは弊社と、あと 4 社、5 社で合弁会社を作ってこちらでコロナウイルス治療薬の開発を行っております。こちらの特徴は、これが PA-001 というものですが、コロナウイルスがヒトの細胞に侵入して増えていく、ウイルスがヒトの細胞に侵入するところの赤いスパイクタンパク質という S2 という領域を阻害する機能を持っていて、この機能は非常にオリジナリティが高いのが特徴です。具体的には、既に販売されている中外製薬様、GFK 様の抗体薬、こちらは S2 ではなく S1 の領域を阻害するのに対して弊社は S2 を阻害するものです。経口剤として既に販売されているファイザー様、メルク様の薬などに関してはウイルスの侵入を阻害するのではなくてウイルスがヒトの細胞に入った後にそれがどんどん増えていくのを抑えるということで、既存の薬とは全く違うメカニズムであるというのが特徴です。この S2 というところをお伝えしているのがどういうことにつながるかというと、この S2 領域というのは変異が起りにくいという特徴があり、変異株にも非常に良好な結果が得られています。アルファ、ベータ、ガンマ、デルタ株に加えまして、オミクロン株に対しても抗ウイルス活性を持っているという結果が得られています。こちらについては今年の 2 月から臨床研究という形でヒトへの投与を開始したというところですので。早ければ来年、もう少しかかるかもしれませんが、実用化を目指してヒトでの治験を開始したところです。

現状、私どもは研究所のキャパシティを広げようということで、今ある本社の隣の土地を取得させていただき、こちらに新棟建築を計画中です。資料のこちらが本社でございまして、ここに橋が付いていて、ちょうどすぐ隣、橋のすぐ横で今の敷地の約 2 倍強くらいで機能としては同じく研究機能をメインとした新棟を計画中でして、イメージとしてはセーリングとかウェーブとか川の近くをイメージしつつ、こちらの建物も既にカーボンニュートラルを達成しておりまして、環境に配慮した形での建設ということで計画をしております。

○総合警備保障 木村様

ENEOS 様にご質問できればと思います。カワサキラボの方ですが、我々も今、警備やインフラの点検等でドローンを活用する事業に取り組んでおりまして、いわゆるカワサキラボの実証フィールド、我々の課題の一つにパイロットの機能、能力の向上、維持というところが非常に課題となっておりまして、先ほど徳富様がおっしゃったとおり、関東近郊だとなかなか練習場所がないという課題がございまして、これを企業に貸し出しするような計画等はおありですか。具体的にあれば教えていただければと思います。

○ENEOS ホールディングス株式会社 徳富様

ENEOS カワサキラボに関しては昨年に開設させていただいたばかりということで、我々のセキュリティ上の管理の人材など、そういったところの観点から今はオープンに様々な方にこの土地を貸すというところはまだ計画はできていませんが、説明させていただいた通り、ここは極力オープンイノベーションの場所にしたい、皆さんで盛り上げていき

たいという思いがありますので、まずは是非お越しただいて、我々とディスカッションしながら、そういった場所として使えるかどうかというところはお話しさせていただければと思います。

○大西会長

福島の浪江町にロボット実証フィールドがあります。そこはドローンの実証もして、おそらくトレーニングもできるのではないかと思います。いずれ川崎でそういうことが行われれば、地の利は浪江町よりはもっと良くなりますが、うろ覚えですが、確かそこは次の原発候補地だったのです。東北電力などがだいたい買っていて、結局それは原発まで至らなかったで、そこを復興の拠点にしようということで、ロボットの実証フィールドができています。

○実験動物中央研究所 野村様

キングスカイフロントネットワーク協議会の会長をしています野村です。ペプチドリーム様に質問なのですが、その前に一言、平野先生にお礼を申し上げたいのですが、キングスカイフロントがブランドになったと言っていただけで非常に嬉しく思っております。ありがとうございます。そのブランドのキングスカイフロントの中で、最も成功しているベンチャー、日本発で一番成功していると言われてるのがペプチドリーム様だと思います。先ほど数字を改めて伺いまして、93億円の売上に対して44億円の経常利益があるというのは夢のような数字だと思います。今度、新しく殿町の最後の土地を買っていただいたわけですが、今までこれだけうまく展開されてこられて、これだけ大きな土地を買われて、次にどんな方向にビジネスを展開されていかれるのか教えていただければと思います。

○ペプチドリーム 沖本様

元々は駒場にいましたが、研究者が増えてキャパシティが足りなくなってきて、キングスカイフロントに移って来たのですが、ちょうど今の建物は200人くらいがキャパシティのところ、現在170名おまして、おそらくあと1、2年くらいで一杯になるだろうということで、研究者をずっと増やしてきたのですが、創業の入り口、上流のところからどんどん下流の方に人も機能も増やしてきている中で、今回ご紹介したコロナウイルスというのが弊社にとっては初めてヒトでの治験を行ったプロジェクトになっておまして、今後はこういった臨床の早期のものについては自社で行っていくために、ますます研究機能を拡大していきたいと考えております。

○実験動物中央研究所 野村様

キングスカイフロントの中に70機関進出していますので、是非ともそういうところとも連携していただいて、活性化できれば良いと思いますし、それとともに、最近、我々は市内

中小企業の方々とも連携を始めておまして、是非ともそういう目で市内の皆さんとも連携を考えていただければ、特別に見えてしまうキングスカイフロントではなく、皆と一緒に伸びていくキングスカイフロントになると思いますので、よろしくお願いします。

○成城大学 平野先生

貴重なご報告、2例ともありがとうございました。私も大変勉強になりました。まずENEOS様、やはり古い設備がそのまま残っているというのは貴重な場だなと思っています。写真を拝見しましたが、ドローンだけではなくて脱炭素燃料をどのように調達していくのか、脱炭素燃料周りの実験のようなことを、こうしたところで繰り広げられるのではないかと思います。備蓄等の問題も絡んでくると思いますが、技術的に工夫をしてみるような、そういった実験の場にも使えるような気がしました。何よりドローンに関してはいつも議論になるのは、「ドローンが落ちたらどうするの」という議論が結構されていて、なかなか危険物エリアは利用できないという問題があるので、それを乗り越えるために何か実験の取組をしていくということにも使えるような気がしました。「ドローンが落ちたらどうするの」って議論は本当に多いです。私自身はそういう意味では「拾いに行く」という答えしか出て来ませんが、それではいけないので、ここでしっかり議論できるのではないかなと思っています。そういう意味ではドローンだけではまだまだもったいないと思います。

それから、味の素さん、福田市長からもお話がありました。若者文化と繋げていくところとの絡みがもうちょっとあるのではないかなとお話を伺って思いました。私はもう若者ではないのでどんな内容と言われても発想はありませんが、その辺りもあるかなと思います。そのためには新しい使い方を発見していくということをしなくてはならないので、利用する際の壁を下げた方が良いのではないかと思います。エリアごとに分けてでも良いので、かなり利用ハードルを下げた方が、新しい使い方がどんどん発見できますし、そういうことは企業の事業にも跳ね返ってくると思いますので、簡便に利用できるエリアを少し特定して切り離して作ってみてもいいのではないかと ENEOS さんの場所に関する話でした。是非とも今後ますます展開されるとよいと思います。そしてドローンを使うのではなくてドローンのような新しいものという着想を得られるところまで行ったら屋台骨になるような施設になると思います。

ペプチドドリームさんですけれども、事業内容について私は全く素養がないのですが、ドリームがあふれているということは良くわかりました。こうした企業の立地が今後ますます進んでいくような環境というものを、川崎市さんがノウハウを次にしっかり活かしてくださればよいと思っています。もう1つは、先ほど下流にも手を広げていってほしいというお話があったので、下流の方というのは、化学工業について川崎はすごく強い場所なので、是非それが生産活動につながっていく、この川崎で上流から下流までという形になればより大きな夢がここで実現するのかなと思いました。

3 情報提供

○大西会長

次は情報提供に入ります。多摩川スカイブリッジの開通式典、その後の運用状況ということで、川崎市建設緑政局より説明をお願いいたします。

多摩川スカイブリッジの開通式典、運用状況等について

○川崎市建設緑政局 鈴木担当課長

多摩川スカイブリッジの開通式典関係、その後の運用状況について説明をさせていただきます。

3月11日の10時から開通式典がありました。当初は、東京都との共同開催を考えていましたが、コロナウイルスの影響で単独開催となり、人数規模も20数名で行わせていただきました。写真左は、福田市長、黒岩県知事、橋本川崎市議会議長で、祝辞をいただいているものです。写真右は、その後に、橋の上へ移動して、テープカットを行なったものです。間宮連合町内会長、橋本市議会議長、黒岩県知事、野村理事長、福田市長の5名でテープカットをしていただきました。その後、開通は15時から、警視庁、神奈川県警の白バイ、パトカーの先導により行われました。

開通後には、右下の写真のとおり、人、車、自転車と大勢の方々にお越しいただき、数千人規模で賑わっていました。お越しいただいた皆さんには、現場感覚として、景色が非常に良いと肌で感じていただいたところがございます。

その後の交通量につきまして、先週に速報値として一度調査をしております。予測では車で11,000台ということでしたが、17日の調査では6,000台から7,000台が通っていたということです。これはコロナ禍の関係により、対岸のイノベーションシティのホテルがまだ開業していないということが影響をしているものと考えられます。今後はさらに増えていくと予測しているところです。国の事業評価を来年度に実施しますので、その際にも、交通量調査を行う予定となっております。しっかりと評価を行なっていきたいと考えています。

○大西会長

続いて、多摩川スカイブリッジの開通に伴うバス路線の運行について、川崎市臨海部国際戦略本部拠点整備推進部から説明をお願いします。

多摩川スカイブリッジの開通に伴うバス路線の運行について

○川崎市臨海部国際戦略本部拠点整備推進部 松川部長

多摩川スカイブリッジ開通に伴うバス路線の運行について説明いたします。

資料7をお開きください。この資料につきましては、多摩川スカイブリッジを経由する新たなバス路線の開設にご尽力いただきました、京急グループの川崎鶴見臨港バス様が普及・啓発用に作成したものでございます。本日はこのチラシで説明をさせていただきます。

先ほど説明がありましたが、3月12日に開通した多摩川スカイブリッジを経由した初めてのバス路線でございます。この路線につきましては、4月1日からの運行開始を予定しているところで、現在、安全な運行を確保するための運転手の習熟訓練を行なっているところと伺っております。

具体的な路線でございますが、資料裏面の路線案内図をご覧ください。路線は全部で2路線ございます。1つは図中の赤い線で記載してありますが、京急大師橋駅からキングスカイフロント西、キングスカイフロント東を経由しまして、京急空港線の天空橋駅を結ぶ路線でございます。往復で約9kmの路線となっております。

もう1つは、青い線で示してあります。図中の右下の浮島バスターミナルから、同じくキングスカイフロント西、キングスカイフロント東を経由して、天空橋駅を結ぶ路線でございます。こちらにつきましては、往復で約14kmの路線でございます。

この2つの路線の運行によりまして、通勤・ビジネス面での利用あるいは地域の方々の生活面での利用が可能となりますので、生活及びビジネスの両面での利便性の向上が期待されております。さらには、キングスカイフロントをはじめとする京浜臨海部と羽田空港周辺地区との交流・連携の強化も期待されるところでございます。

次に具体的な運行について説明しますので、資料の表面をご覧ください。資料左側から大師橋駅前、キングスカイフロント西、そして浮島バスターミナル、最後に天空橋駅の4箇所の時刻表をお示ししています。

大師橋駅前から天空橋駅前までの路線につきましては、平日で34本、土休日で24本の運行を予定しております。また浮島バスターミナルから天空橋駅前までの路線につきましては、平日12本、土休日5本の運行を予定しているところでございます。

時刻表の右側をご覧ください。天空橋駅前発の時刻表です。大師橋駅行きと浮島バスターミナル行きの両方の発車時刻が示されておりまして、両方の路線がキングスカイフロントに停車する運行間隔としましては、通勤時間帯には概ね25分程度の間隔で運行ということになっております。

新型コロナウイルスの影響を受けて大変厳しい状況の中で、臨港バス様のご尽力により実現した新たなバス路線でございます。今後も川崎市と臨港バス様が相互に連携・協力をしながら、多摩川スカイブリッジを挟んだ両岸の成長を支える公共交通機関として、バス路線の利用促進と利便性向上に取り組んでまいりたいと考えております。

○大西会長

多摩川スカイブリッジ関係で2つ、開通式典等の状況とバス路線について説明がありましたが、ご質問等がありましたらお願いします。

○日本アイソトープ協会 荒野様

バスの状況についてお伺いします。当協会では東京の方から通っている職員が何人かい

るということで、天空橋から新たなバスが出るというのは非常にありがたく感謝しています。ただ、25分間隔ですと、なかなか普段の利用というのは厳しいかなと思ったりしています。コロナ禍で大変な状況の中で、そのような間隔で運行するというだけでも大変だろうとは思いますが、将来的にもう少し午前と午後と出勤時等に運行数を増やすことは可能なのでしょうか。

もう1点は、羽田空港の近くの路線でありながら、空港に直接行くというお考えはないのでしょうか。たとえば、通勤時はパスしてもらった方が非常にありがたいと、時間もセーブできますけれども、空港からキングスカイフロントに来られる人にも利用してもらうという意味では、その辺をフレキシブルにお考えいただける可能性はあるのか、その2点をお伺いしたいです。

○川崎市臨海部国際戦略本部 松川部長

最初に運行ダイヤの関係でございまして、需要予測に基づきまして、臨港バスにご検討いただいたものでございます。ただ、やはり新型コロナウイルスの関係で利用が落ち込んでいるという状況もございまして、そういう状況の中で精一杯努力していただいた結果と認識しているところでございます。ただ、少ないということではございまして、まずはこのダイヤでスタートさせていただきたいというところでございます。ダイヤの検討にあたり、キングスカイフロントをはじめ沿線の企業の皆様にアンケートを取らせていただきました。その結果といたしまして、やはり25分というオーダーは少し長いですね。15分とか10分とかのピッチでの運行を望んでいる声が多くありました。まずは運行を開始させていただいて、その利用者と、働き方の状況も変わっていますし、その辺の状況を確認させていただきながら、運行バスを増やす取組としては、通勤需要にこだわることなく、バス利用者が増えていけば、当然本数も増えていくのではないかとということ、これは勝手に川崎市が言うことではないと思っておりますけれども、そういうことで、臨港バスだけではなくて、他の事業者も含めて、通勤利用だけでなく、他の利用も含め、バス利用を増やしていく努力をしていきたいと思っています。そういうことによって増便していけるとよいと思っています。

2点目の空港についてはご指摘の通りだと思います。なぜ橋ができたのに空港までバスが行かないかという疑問はまさにごもっともでございます。やはりこれも新型コロナウイルスの関係でございまして、空港需要が相当落ち込んでおります。そういう状況の中で多摩川スカイブリッジ開通のタイミングをとらえて開始というのはなかなか難しかったということが実情でございまして、空港単独方面につきましては、ビジネス利用だけではなく、市民の皆様にも多くの期待を寄せられております。そういったことも含めまして、空港需要に注視しながら、バス事業者、広く言えば京急グループ様になっていこうかと思いますが、各企業様と綿密に連携しながら調整に努めて、できるだけ早い段階で空港ターミナルへの開通をしていきたいと考えています。

○大西会長

まだご質問があると思いますが、この橋は川崎市と大田区をつないでいるわけなので、今日は大田区から産業経済部の方においでいただいていますので、大田区側から見るとこの橋、あるいは川崎というのはどう見えるのか、その点についてのご意見を頂戴した後にディスカッションを続けたいと思います。よろしく願いいたします。

大田区と川崎市の特区連携等について

○大田区産業経済部 白井様

私は大田区役所の職員で、大田区役所は蒲田に本庁舎がございますが、私の勤務地は羽田イノベーションシティの中にございます。本日は、バスがあればバスで来たのですが、まだ路線が通っておりませんので、シェアサイクルで来ました。10分くらいですが、気持ちの良い10分間でした。また、あの橋を渡っている時に感じたのは、橋を渡ることを目的にしていると思われる人が非常に多くいらっしゃいました。非常に多くの方に喜ばれている橋であることを感じるとともに、私もこれまで対岸からキングスカイフロントの様子を見させていただいていたのですが、今回すぐ来ることができるということを私自身も体感いたしましたので、これからお時間をいただいて説明する大田区側の取組を皆様にご存知にさせていただいて、今後、具体の連携の方を進めていただけたらと思っております。

本日のテーマは川崎市と大田区の特区連携ということなのですが、本日は連携相手のことを知っていただきたいということで、説明をさせていただきます。もっと聞きたいという方がいらっしゃいましたら現地までお越しいただければご案内させていただきますのでよろしく願いいたします。

大田区は、東京23区の端にありまして、面積は川崎市の半分ほど、23区の中では3番目となっています。

羽田空港には3つのターミナルがございまして、第3ターミナルから一つ目の駅の天空橋のところに私たちの勤務地でもあります、羽田イノベーションシティがございます。コロナの前の状況ですが、羽田空港が再国際化して以降、国際便の本数が増えてまいりました。コロナの直前では32都市と結んでおりまして、また、傾向として特徴的だったのが、コロナの直前まで国際線の貨物の量も増えてきておりまして、人だけではなくて物の取扱いというのも非常に増えてきていた傾向がございました。羽田イノベーションシティは、大田区が国から土地を購入させていただきまして、公民連携事業で定期借地権を設定して民間事業者を募集して開発をしたところでございます。住所が羽田空港一丁目一番4号という非常にわかりやすい住所になっておりますので、こちらの方もうまくプロモーションに使えたらなと思っております。

こちらは公民連携事業ということでご説明いしましたが、大田区で基本的な考え方などを策定させていただき民間事業者を募集させていただきました。その結果、鹿島建設を筆頭にして9社でコンソーシアムを組んでいただき、この事業者が提案されたものを採択させ

ていただきました。特色としては先端産業を集積しますという取組、そして文化産業の発信をするという取組、そしてエリアマネジメントの取組という 3 つの柱の中で民間事業者が事業を進めていただいております。

こちらが平面図ですが、一部の区画はこれからオープンとなっておりますが、2020 年 7 月にオープンいたしました。そしてそれに先立ちまして国家戦略特区の指定を受けるとともに、スマートシティの先行モデルプロジェクトにも認定いただいて、まだまだ小規模ですがスマートシティに関する実証実験等の取組が進んでいるところでございます。民間事業者がテナント誘致をされており、モビリティ、ロボティクス、健康医療という 3 つの柱で進めておりまして、このうち健康医療の EBM はキングスカイフロントに進出されているジョンソン&ジョンソンとも一緒に取組をされていると伺っております。

これまでコロナ禍ではありましたが、合間、合間で 2 回ほど大きなイベントを開催させていただきました。その時には近隣の方、区民の方等に多く来ていただいて、小さなお子様が先端産業に触れる機会を設けるなど、キングスカイフロントでもやられていると思いますが、やはり地域の方に知っていただく重要な取組ですので今後もこういったことを展開していこうを考えています。ロケーション的には、多摩川越しに川崎市の街並みの向こうに富士山が見えるというような非常に良いポイントでございまして、街区内にはキングスカイフロントと同様にホテルや会議ができる場所もありますので、まず立地企業同士の連携の中で羽田側の施設も使っていただけると嬉しく思います。メディアでは足湯がよく紹介されていまして、飛行機好きの方がカメラを持って来るなど、夜になると若い方が集まって人気のスポットとなっております。

ここからは羽田イノベーションシティの中で大田区が事業をしていることを紹介させていただきます。また、3 月 12 日の先ほど福田市長からお話がありましたシンポジウムはこの場所を使って開催し、福田市長にも来ていただきましたし、野村理事長にも来ていただきました。どうもありがとうございました。

こちらは HANEDA×PiO（ハネダピオ）と呼んでいますが、元々、京急蒲田駅前に産業プラザ PiO という施設を持っていて、地域の中で PiO というものが根付いていたというところもありまして、羽田に新しい PiO を作ろうということで HANEDA×PiO を設けました。大きく 3 つの機能がございまして、テナントを誘致するテナントゾーン、交流を目的とした約 1000 m²の広い空間の交流空間ゾーン、我々の執務等を行う事務ゾーンがあります。テナントにつきましては 17 区画を区役所の方でリーシングを行いまして、テナント企業は埋まりました。我々は行政ですので、テナントとして入っていただくのはもちろんなのですが、あくまでお願いですが、地域や他の企業とのコラボレーションを是非してくださいということを事前に面接でお願いして、ご了解いただいて入っていただいている企業が多いので、こういった企業と、キングスカイフロントをはじめ川崎臨海部の企業とのコラボレーションもできればと思っております。

本日一番知っていただきたいのは、交流を目的とした PiOPARK です。オープンイノベ

ーションということで、できるだけ自由に使っていただきたいということで、「あそびの最前線を切り拓く」をコピーにしています。大田区と大田区産業振興協会がしっかりバックアップして、企業間の連携を後押しさせていただきたいと考えております。機能としては、コワーキングスペース、イベントスペース、様々なサービス提供という3つの機能がございます。コワーキングスペースについては、利便性が高いので、例えば地方に拠点を持つ企業が首都圏に来る機会が多いので拠点として使うというような使い方も想定しております。年額40万円から法人登記もできるようになっています。イベントスペースについては、コロナを経て通信環境についてかなり充実してつくったつもりです。

3月12日のオンラインイベントも非常に多くの方に参加いただき無事に開催することができました。既に多くの方に使っていただいております。事例としては、スイスの大使館の方に使っていただいている他、地方の農業法人と区内の企業をつなぐ取組などもあります。また、地方の自治体に使っていただいた事例もございます。次にサービスですが、大田区、大田区産業振興協会が様々な支援サービスを提供いたしますということで、こちらも強みにしていきたいと思っております。様々なサービスがありますし、専門のスタッフもおりますので、何か必要なときにはお声をかけていただければすぐに必要なサービスを提供いたします。

川崎市様とは既に平成25年に連携協定を結ばせていただいておりますが、それを中心に他の企業、自治体とも積極的に連携をして、羽田、川崎の臨海部エリアを一つのエリアとして、ハブとして日本経済を活性化するための環境をつくっていきたくと考えております。Webサイトもございますし、イベント等も開催してまいりますので、今後、大田区産業振興部に川崎市様を通じてご連絡いただければ、現地をご案内させていただきますし、いろいろな機能がございますのでもっと知りたい、使ってみよう、立地企業と話をしてみたいなどございましたら、しっかりサポートさせていただきますのでご利用いただければと思います。

○全日空 古谷様

まずは多摩川スカイブリッジの開通、おめでとうございます。私も初日の15日に並んで最前列で渡り初めをしてまいりました。PR動画で弊社の航空機をたくさん映していただきましてありがとうございました。

おそらく私どもは橋が開通して最も恩恵を受けている企業の一つだと思っております。私どものセンターから毎日、国際線にフードロード車という大きな車両で運んでいますが、開通前は大師橋を経由して羽田空港に行っておりました。所要時間が35分かかっておりましたが、開通後はわずか10分ということで1/3程度の所要時間になっております。また、当初心配しておりました渋滞も全くなく、定時性もかなり確保されています。フードロード車は燃費がわずか1.4km/リットルという非常に燃費の悪い車両なのですが、距離が短くなった関係で1往復あたり800円も燃料費が削減できるようになりました。開通後、時間短縮、定時性確保、コスト削減の3つのメリットがございまして、非常に助かっています。

一方、今後、多摩川スカイブリッジをさらに発展させていく意味では、安心安全な車両運

行も非常に重要な要素かと思いますが、その点について 1 点気になる報告があがっています。細かすぎて恐縮ですが、車両で殿町側から大田区の方へ行くと T 字路になっていると思いますが、T 字路のところを大型車両が右折する際に羽田空港から来る停止線で車が止まっていると思いますが、その停止線が結構前に出ている感じで、フードロード車の部署からヒヤリハットの報告がこの 2 週間で 3 件も同じ場所で報告されています。ヒヤリハットの報告が同じ場所で短い期間に 3 件あがるというのは滅多にないことだと思っております。その点について情報共有という観点で発言をさせていただきました。もしかするとそこは川崎市の守備範囲ではなく、大田区、東京都ということかもしれませんが、今日は大田区との連携ということもありましたので共有させていただきました。

○川崎市建設緑政局 鈴木担当課長

交差点については停止線の位置も含めて、警視庁と協議をして決めておりました。セミトレーラーが通れるような軌跡を描いた上でセッティングしてございます。当然、神奈川県警とも神奈川側の交差点はそういう形で両方とも警察と協議した形で停止線等の位置を全部決めていきます。基本的には問題ないと思っております。ただ、そういったことのお声が上がっているということですので、一度チェックをさせていただいて、また状況によって現場に行きまして確認をさせていただき、今後調整させていただきたいと思っております。

○大西会長

橋はおそらく全日空様が一番開通を待ち焦がれていたのではないかと思います。元々ここにケータリングの拠点を立地するときに当然ここに橋がかかるということを見越して立地されたと思いますのでようやく念願がかなったということでしょう。橋については是非皆さんも散歩がてら渡っていただくと良いのかなと思います。キングスカイフロントの新しい顔になりますね。

次に、参考資料の紹介を川崎市からお願いします。

4 参考資料紹介

- ・東扇島水江町線の整備状況 参考資料 1
- ・羽田空港の新飛行経路の運用状況等 参考資料 2
- ・ニュースレター「KAWASAKI Coastal Area News」Vol.27-28 冊子配布 参考資料 3
- ・パンフレット「KING SKYFRONT～ライフサイエンスから、世界を、未来を変えていこう。～」冊子配布 参考資料 4

○川崎市臨海部国際戦略本部

- ・参考資料 1～4 紹介

5 閉会

○大西会長

全体のまとめに入りたいと思います。平野先生から全体についてのコメントをお願いします。

○成城大学 平野教授

川崎の地域で起きている新しい動きを知ることができて、大変勉強になりました。地域間連携の話をしたのですが、川崎と鹿島、千葉、四日市など全国各地のいろいろな結びつきが必要になってくるわけですが、そのときにどこが核になるかという、それは川崎しかなり得ないと思います。最も先進的に進んでいる川崎が核となって、それは川崎にとっては負担かもしれませんが、川崎で蓄積されたノウハウを各地域に流して地域間で共有していくことが必要になりますので、情報を出すばかりではないかと思うかもしれませんが、是非とも川崎市には頑張ってくださいと思います。

地域間連携で重要なことは、規制緩和等について、市町村ごとで声をあげてもなかなか実現しないことがあるので、川崎市が音頭を取る、あるいは他の市町村が音頭をとっても良いのですが、コンビナートの立地自治体の連合として、こういう規制緩和や支援策が必要であるという声をあげる必要があります、その中でも中心的な役割を果たしていただきたいと思います。地域間で、横が何をやっているかがわかっていないと私は思っていて、横で何をやっているかを知ることによって進むこともあると思いますので、横のネットワークをつくっていかなければいけなくて、川崎を中心に横のネットワークが構築されると良いと思っています。横のネットワークがないせいか、私もこうした会議が重なっていて、同時刻に茨城県でも会議が開催されていて、そちらは欠席して川崎に来ていますが、四日市も今日、開催されるという話があって、もう少し横の情報の流れがよくなると思います。

それから、川崎市、立地企業ともに頑張っていらっしゃるのですが、一つ懸念点があるとすると、本当に企業側がニーズをきちんと伝えられているか、何かがタブーになっていないかということをお心配しておく必要があると思います。ここで聞かない話として、例えば行政手続きにおける電子申請の話、キャッシュレス化の話は聞いたことがなくて、もう解決されている話なのか、あるいは今は言うのをやめておこうという話なのか、私には判断がつかないところがあるのですが、何かをタブーにすることなく、企業側がこれは言うてはいけなかなといった自重をすることなく、いろいろな要望をあげられることが大切だと思います。川崎市ではそれはうまくいっていると思いますが、そういう環境に合って川崎がより発展していくとよいと思います。

○大西会長

今日は、冒頭に臨海部ビジョンについての説明があり、その中でビジョンができて4年経ち、今後、リーディングプロジェクト等の見直しを含めて考えていきたいという説明が川崎市の方からありました。それは非常に大事なことだと思います。

私は川崎とは長い付き合いで、学生の頃に川崎で調査を行ったことがありまして、40年

以上の付き合いです。臨海部は工業地帯ですので、その頃は来ることができなくて、臨海部に立ち入ってからは30年くらいになりますが、最初の臨海部との付き合いのときには、市街地に近い立地企業がマンションをつくるなど大胆に土地利用転換を図りたいという話があり、川崎市としてはちょっと待ってくれということで、大胆な土地利用転換をする前に産業系の土地利用も考えた方が良くはないかということで、この地域の産業の将来展望を考えながら、企業と一緒にどのような土地利用をしていけば良いかということを考えようということだったと思います。

それからずっといろいろな経緯があるわけですが、私の印象として、これだけ広くて、いろいろな企業が立地していると、必ず変化が起こります。企業のそれぞれの事情や世の中の動きに呼応してということかもしれませんが、全体を見渡すと、絶えず変化、新しい動きが起きている地域だと思っています。その時に、このようなビジョン、計画をつくってまとめておくことは大切なことですが、これにこだわりすぎると、ビジョンをつくった時点で発想が止まってしまうということがあると思います。新しい動きが起こったときに、ビジョンに書いていないと、どうもこれは良くないことなのではと思ってしまうおそれがある。これはある時点で整理するとこうだということで、重要なレポートだと思うのですが、新しい動きに対しては、率直に新しさを評価して、評価できればそれを促進していくという進取の気性というか、前向きな態度が必要だと思っています。ビジョンをつくった時には見通せなかった新しい動きが出てくるので、真摯に受け止めて、学んで、促していくという前向きな姿勢をこの会としても持っていきたいと思います。

何が起るか、今日も新しい話が出てきたと思いますが、ペプチドリームの話も10年前であれば川崎では考えなかったような話だと思っていますし、これからもそうした新しい話が出てくる可能性があるので、うまく新しい動きを起こさせて育てていく、それに触発されて連携していくという動きが企業の中から出てくると良いのではないかと思います。

市として共通項としてやるべきことは、インフラを向上させていくことと、交通手段をより便利にしていくこと、それから平野先生からもお話のあったように、これからはDX、情報基盤の整備と利活用が新しいインフラになってくると思いますので、そういったことを着実に進めていきながら、恵まれた土台の中で、新しい試みをするような人や企業をうまく受け止めて奨励していくという臨海部でありたいと思います。こういうことを総括的に申し上げるのは、今、一つの転換期であり、キングスカイフロントもだいたい一杯になって、川崎市全体として新しい拠点を考えていく必要があると思いますし、新しい動きも出てきていると思いますので、それらがあるがままに捉えながら、連動するような動きを起こして、常に前向きな臨海部でありたいと思っています。

○東京大学 瀬田准教授

本日、大田区と川崎市の連携の話がありました。隣の自治体同士の関係は、連携だけでなく競争もあると思いますが、うまい役割分担ができるような形で、せっかく同じような場所

にあるので共に発展していくということを戦略として導き出せると良いのかなと思いました。そういう意味では、競争している面では競争しなければいけない部分もあるかもしれませんが、なるべく調整をして、そのためには、うまく話し合える機会を定期的に設けるなど、枠組みをしっかりとつくって、お互いの考えを理解し合えるようなプラットフォームを用意することが必要だと思いました。

○大西会長

ありがとうございました。最後に、主催者を代表して加藤副市長からご挨拶いただきます。

○川崎市 加藤副市長

皆様、本日はお忙しい中、本協議会に参加していただきましてありがとうございました。また、学識者の先生方にはいつもお忙しい時期での開催となり申し訳なく思っておりますが、本日も貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。それから本日発表をいただきました ENEOS 様、ペプチドリーム様、大田区様、本当にありがとうございました。

冒頭、市長から話でしたが、臨海部ビジョンができて4年経ちました。この4年間、私どもを取り巻く環境は急激に、そして大きく変化しておりまして、今後もこのような予測不可能な状況が続くのではないかと思います。川崎臨海部の活性化に向けまして、臨海部ビジョンに基づく取組を皆様と一緒に進めてまいりたいと思いますので、引き続きご協力をお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

以上